

令和7年新年祝賀レセプション 林大使挨拶
2025年1月15日 於大使公邸

本日は、令和7年新年会にお越し頂き誠にありがとうございます。私がブラジル大使として着任してから、早くも4回目の新年を迎えることができました。皆様とまたこのように新たな年の始まりをお祝いできることを大変嬉しく思います。

日本には干支というものがあり、昨年は躍動のシンボルである辰（たつ）年で、5月の岸田前総理、11月の石破総理のブラジル訪問という、まさに辰が天に昇るごとく日伯関係がさらに強化された躍動の年となりました。ちなみに、日本の総理大臣が1年に2度ブラジルを訪れるのは歴史上初めての機会でした。

さて、2025年は巳（み・へび）年にあたります。日本で蛇は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルとされており、へび年は再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になると考えられています。当館としても、本年を日系社会はじめ、これまで先人がブラジルにおいて築いてきた歴史に敬意を払いつつ、若い世代や女性の活力を更に生かした、変化を恐れず柔軟に発展していける年とすべく、日系社会の皆様や関係各位と連携して参りたいと考えています。

今年は日本とブラジルが外交関係を結んで130周年の記念すべき年です。長く強力な日ブラジルの友好関係をさらに発展させるべく、大使館としてもブラジル政府と協力して「日伯友好交流年」と銘打ち、文化、観光、スポーツなどの様々な分野で取組を行っていく予定です。

先日、ある連邦下院議員が日伯関係について興味深い考察を聞かせてくれました。これによると、「技術大国日本と資源大国ブラジルは夫婦のようにお互いを補完し合っている」とのことです。本日もご出席の日系団体、日本語教育機関、元国費留学生や各文化団体の皆様、メディア関係者の皆様のお力も得て、長年連れ添い相互に補完し合う夫婦のように、もしくは、チーズとゴイアバーダのように、日本とブラジルの切っても切れない強い絆をより強固にしていけたらと考えています。

最後に、今回用意したブースを紹介をします。日本の文部科学省の国費留学制度に関するブースを用意しています。ぜひ、ブースにお越し頂き、日本に関

心のある若い世代のブラジルの方々の日本での研究活動の選択肢として、この制度について知って頂きたいと考えています。また、今年も寿司や天ぷら、そば、日本酒等を用意しました。お楽しみください。

それでは、皆様にとって、2025年が素晴らしい年となることを心から祈念いたします。本年もどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(了)